

～ニーズを引き出して その先のケアへ～

特別養護老人ホーム第二南風

介護主任 杉山亜希

ユニットリーダー 吉川優美



取り組みをした動機

このケアで
良いかな・・・



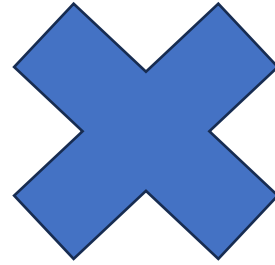
◎利用者様のニーズ・意見を取り入れる → 満足度の向上と改善に繋がる

◎利用者様とのコミュニケーション → 信頼関係 → 安心できる環境

介護ニーズとは何か？



助けて欲しい



援助が必要だ



支障なく生活ができると判断したもの

課題

ニーズを捉える視点

- 利用者様本人の思い(言葉、行動などで表出されたもの)
- 生活するうえで支障が生じていて改善を要するもの
- 生活するうえで支障が生じる恐れのあるもの
- 現在は行っていないが、行うことができる可能性があるもの



ニーズを捉える中での留意点



- 主観的な発言内容をすぐにニーズと捉えない
- 1つの情報だけに注目しない
- 「根拠」となる利用者様の情報が分かるようにする



ニーズの聞き取り方法



- 1 情報を分析、解釈、統合してニーズが浮き彫りになったら端的に表現する
- 2 利用者様を主語として「〇〇したい」「〇〇になりたい」と分かりやすくする
- 3 ニーズが複数ある場合には優先順位をつける

入居者ニーズ一覧表①

入居者	ニーズ	本人・家族
C 様	今の状態が変わることがとても嫌で不安だ。このまま変化することなく自分らしく暮らしたい	本人
D 様	嚥下機能が低下することなく、ご飯を美味しく食べたいと思っている	本人
E 様	看取りケア中だが、意思の疎通はできる。以前に比べて自分がして欲しいことを言う事が減ってきている。何かやるたびに聞いて欲しい。	本人
F 様	以前はナースコールの認識ができて呼ぶことができた。認知面が進行してお部屋から呼ぶことが難しくなった。	本人
G 様	①体が動かなくなってきた。諦め半分。リハビリをやる気がない。 ②以前のように体調良く今の体の機能を低下することなく暮らしたい。	本人

入居者ニーズ一覧表②

入居者	ニーズ	本人・家族
H 様	①物忘れがあり、食べたことを忘れてしまう。食事はおいしいけど量が少なくて腹が減る。 ②ご飯の量を増やすか腹が減った時にすぐに自分で食べるものがほしい	本人
I 様	今の機能が低下することなく、今の生活が続けばいいと思っている。	本人
J 様	①お腹は空くが経管注入はお腹が痛くなること、動けなくなることが嫌い、なるべく早く終わってほしい。 ②食事環境を整えて、なるべく苦痛のない食事生活を送りたい。	本人
K 様	骨折後移動の手段が車椅子になった。今は、痛みもなくなったので以前のように杖で歩行することに戻りたい	本人

ブレインストーミングとは？

●ブレインストーミングとは？

集団でアイデアを自由に生み出すことで、思考発想、問題解決などのため、仕事や教育シーンに愛用される手法のひとつ

●ブレインストーミングを使用した理由

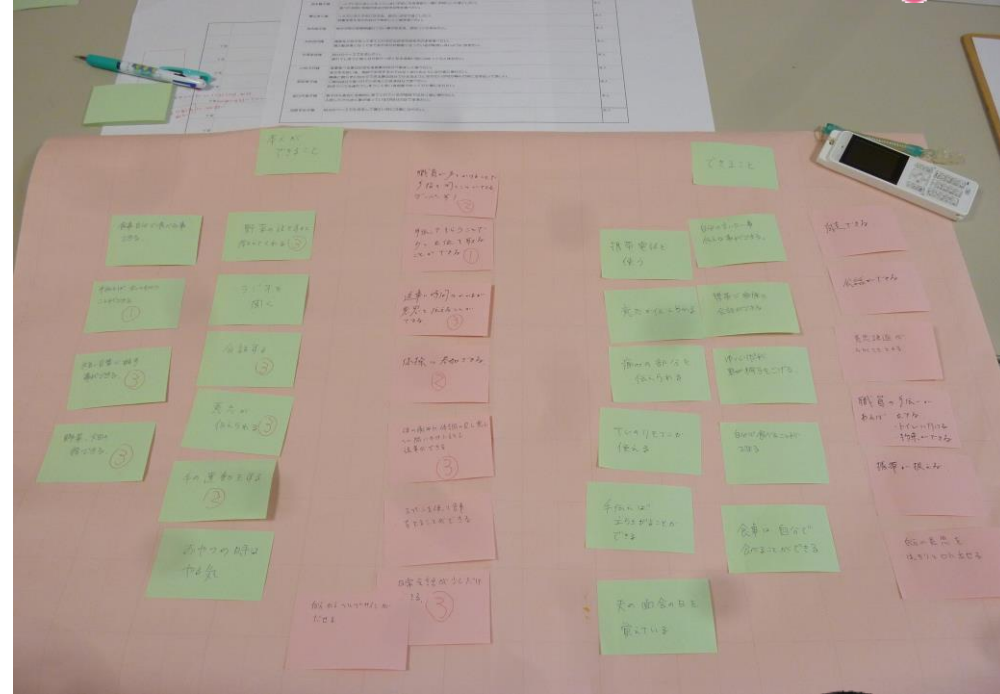
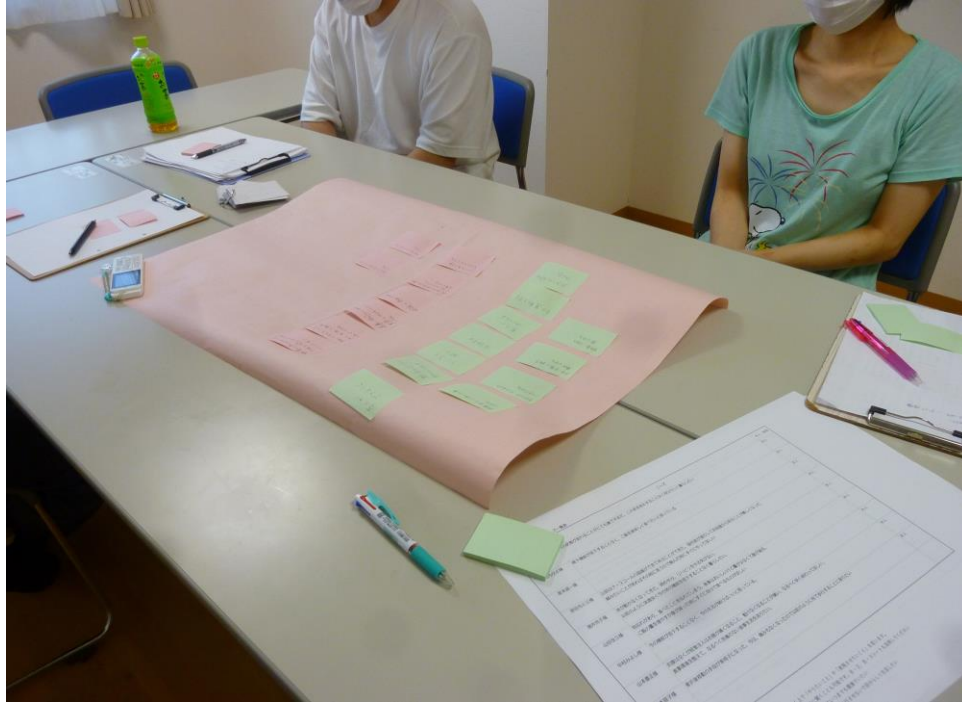
ユニットの垣根を越えて職員全員で利用者様のニーズとアプローチ方法を考える取り組みを行いたい

●必要な道具

付箋紙、模造紙（ホワイトボード）、マジック



ニーズの抽出方法



手順

- ①利用者様に対して話し合いを行う。
- ②出来る事に着目してたくさんアイデアを出す。
- ③項目ごとに分けてまとめる。
- ④実施方法と目標を設定する。



花水木 Aさん 88歳 女性 介護度4



ニーズ

**体が動かなくなってきた。諦め半分。
リハビリをやる気がない。**

**以前の様に体調良く、今できること
を 維持して暮らしたい。**

花水木

Aさん

❀ 現在の様子



項目	本人の状態、趣向
離床	ティルト式車椅子使用 傾きあり
排泄	希望時のみ2人介助でトイレ それ以外はパット交換
コミュニケーション	離床時間が減少 他入居者との会話が減った

花水木 Aさん



【ブレインストーミングで出た意見】

手伝えば少し立位をとることができる。
自分の体調の良し悪しを職員に伝えられる。

【ニーズに対して抽出したケア】

立位の動作を手伝い、本人に負担なく移乗をする。

【目標】

後ろからお尻を支えて本人の足の力で立つことが習慣化できる。

花水木 Aさん



【実施方法】

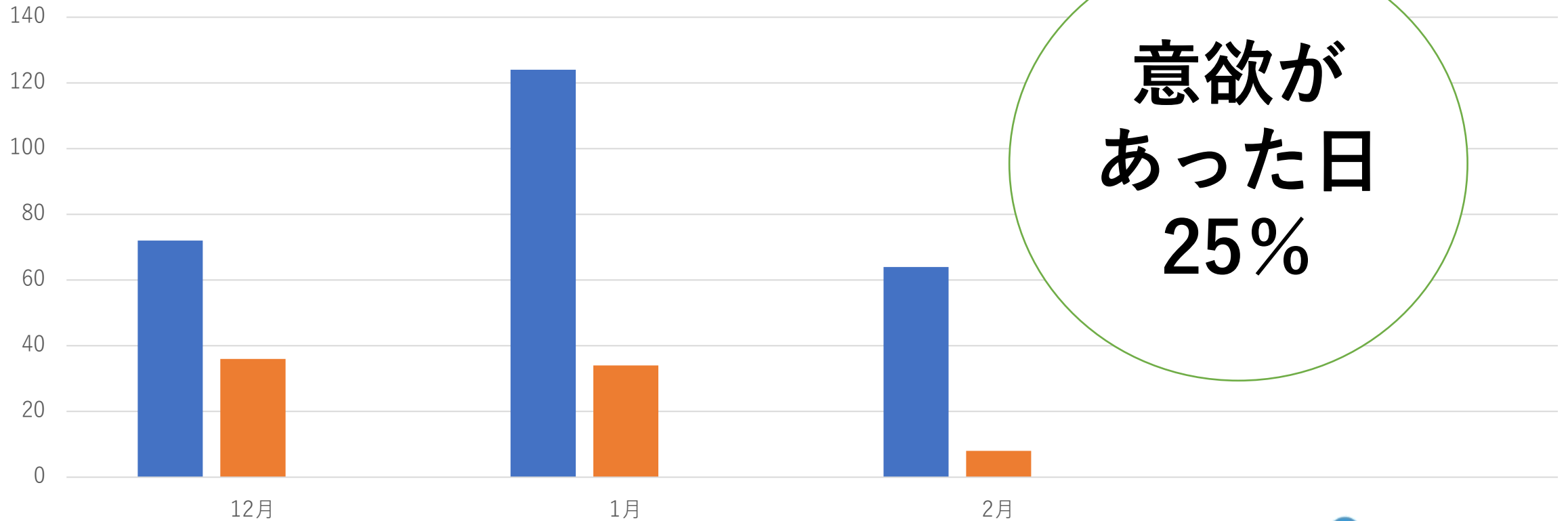
車イスからベッドへの移乗時、L字柵を持ってもらい、後ろからお尻を支え本人の足の力で立ってもらう。

【評価方法】

現在のADLは、前から全介助で移乗しているので取り組み後は、本人の足の力で立ってベッドに移ることが習慣化できているかどうか比較する。

実施結果

■実施回数 ■出来た回数



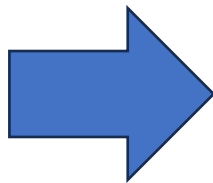
**「やってみようか」「立てるよ」
「いいねー」「やってみるだね」**



**「限界だよ」
「やめて」
「ダメだね」**

結果

ケア提供の減少・
習慣化できなかった



課題

ニーズとADLにズレ



本人に負担



ケアの見直しが必要

ユニット職員
以外が対応

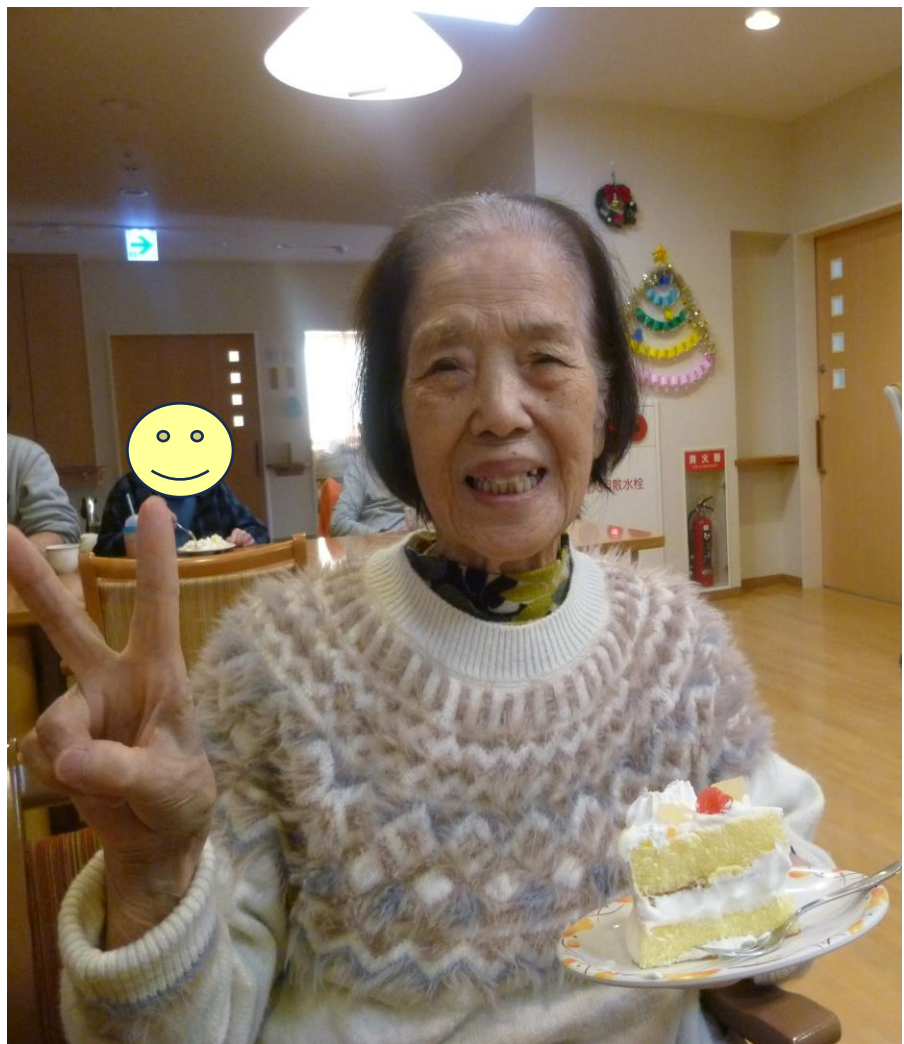


実施できなかった



ケアの共有が
できなかった

花菖蒲 Bさん93歳 女性 介護度3



ニーズ

今までは人に囲まれて生活してきた為寂しさをあまり感じなかった。

入居後から馴染の人たちと会う事がなくなり寂しくなってしまった。

一人は寂しいから好きなことをしてみんなと楽しく過ごしたい。

花菖蒲

Bさん

🌸 現在の様子



項目	本人の状態、趣向
食事	車椅子に座るが身体の傾きあり ぼーっとしながら目を瞑り食べている
移動	車椅子使用。認知症の為 歩行不安定、転倒リスクあり
精神状態	感情失禁、帰宅願望あり
趣味趣向	細かい作業が好き、花が好き、 病院に勤めていたので病院が好き

花菖蒲 Bさん



【ブレインストーミングで出た意見】

自分の意見をはっきり伝えられる
家族との関わりを大切にしている
髪の毛など身だしなみを整えることができる

【ニーズに対して抽出したケア】

他入居者、職員と関わる時間を作ることで馴染みの
関係を作り本人の持つ寂しさを軽減できる

【目標】

寂しくなることが減り
施設で落ち着いて過ごすことができる

花菖蒲 Bさん



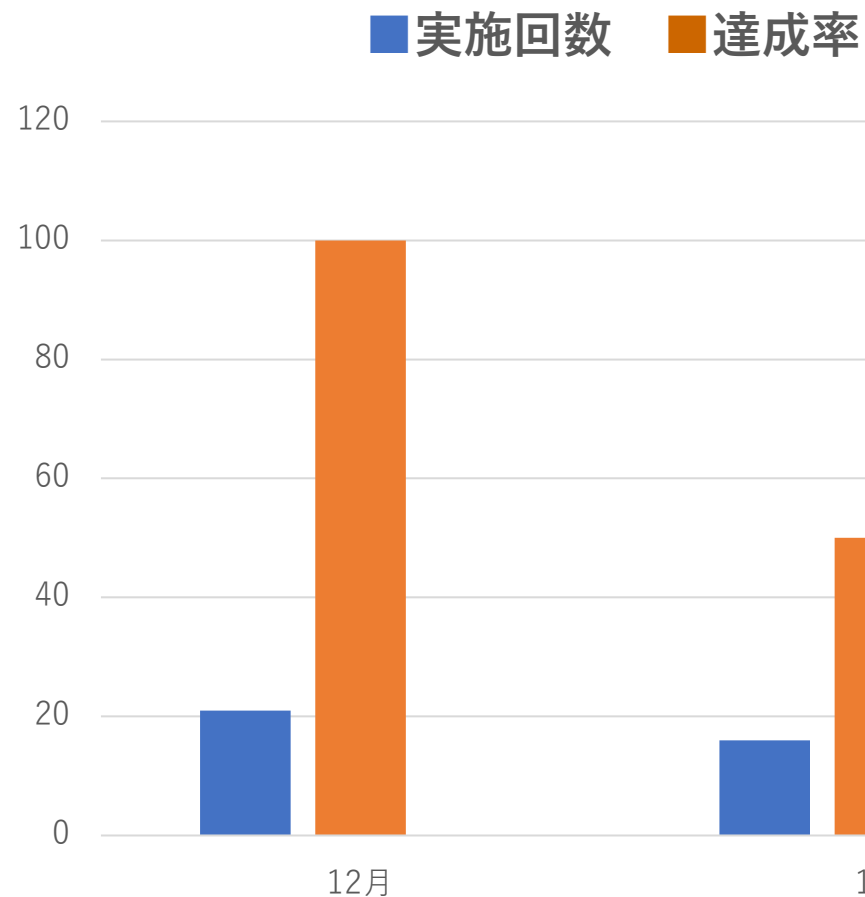
【実施方法】

おやつの時間に他利用者様や職員を交え
一緒に過ごす時間を作り楽しんでもらう
その時の様子を記録に残す
(満足度、一緒にいるときの様子)

【評価方法】

おやつの時間を他入居者や職員と一緒に過ごす
事が来ているか、おやつの時間に楽しんでもらえ
ているか、一緒に居て落ち着いているのかを
取り組み前と比較する

取組を行った日数の実施結果



達成率が75%
一緒に
過ごすことが
習慣化できた

「美味しい」「美味しいね」
「わー嬉しい」「ありがとう」



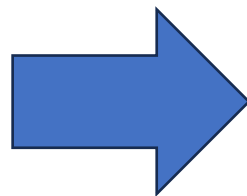
他利用者様や
職員と一緒に
食べる事で帰宅
願望が少なくなる

結果

職員が話題の提供が出来ず「美味しい」「嬉しい」以外の言葉を引き出すことができなかった

課題

コミュニケーションスキルの向上



課題

- ◆ADLとニーズのズレが生じた場合、迅速にケアの見直しができること
- ◆認知症の方への接し方の向上
- ◆情報共有の体制と方法の見直し

まとめ

- ◆ブレインストーミングを取り入れたことで色々なアイディアを出すことができ、適切なケアを見つけることができた
- ◆計画、実行、評価、改善を繰り返して利用者様のニーズと目標や課題を明確にしていくことを常に行っていく

目標

ニーズに沿ったケアを実践する事で
信頼関係を築き、安心できる
サービスの提供を目指す

入居者様
ファースト！





ご清聴ありがとうございました

